

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1971100126
法人名	社会福祉法人 芳寿会
事業所名	グループホーム回生荘
所在地	〒 402-0033 電話番号 0554-45-5211

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年9月29日

## 【情報提供票より】平成20年8月4日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	11人	常勤	3人	非常勤	8人	常勤換算	2.9人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 0 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,869 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 100,000 ) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1170 円			

## (4) 利用者の概要 平成20年7月31日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	回生堂病院、米山歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年8月25日

特別養護老人ホームとデイサービスセンターに併設されたグループホームである。玄関は木製の手作りの表札が温かく迎えてくれる。玄関に入ると職員の顔写真と職名がA4サイズに一枚ずつ掲示され、「ようこそ スタッフ一同よろしくお願ひします」と言葉が添えられ家族等にとっては顔の見える関係作りとなっている。ホーム内は、ゆったりと清潔感がある。各居室は本人の趣味など意向に添った部屋作りとなっておりトイレも設置され居心地よく工夫されている。庭には野菜も植えられ、食材として利用者と職員が話し収穫している。職員のチームワークもよく、利用者と共に穏やかに笑顔で過ごす姿勢があり、利用者の安心した生活を支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 案内板の設置は併設施設の入り口付近の設置について検討中であったが今回は設置され分かりやすい。事業所独自の理念について、職員同士で話し合い簡潔で誰にも分かりやすい言葉で表現し作成されている。理念は、ホーム内に掲示され職員はいつでも目に入り意識しながら理念を実践に繋げている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティング等において、全職員が前回の評価の改善部分を確認・共有し、評価を活かした取り組みをしようと努力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、ホームの運営状況や外部評価の報告等行ってきたが、本年度は委員の異動や役員交替等が多く未開催である。構成メンバーに地域消防団の方にも入ってもらえるように協力依頼している。早期に開催していく計画である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について個々に合わせた報告をしている。家族会もあり勉強会や話し合いなど行っている。サービス内容についての意見、苦情、不満が気軽に言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会は法人として加入しているが、行事には参加するまでには至っていない。地元の住民とお茶を飲んだりする機会はあるので、さらにより良い関係が築けるように、利用者が回覧板をまわすことも検討している。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム回生荘

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、事業所として家庭と地域の連携を重視した理念を独自に作り上げている。住み慣れた地域でその人らしく明るく家庭的な雰囲気大切に、心穏やかに笑顔で暮らし続ける運営に心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム内の居間・廊下には大きく手作りされた理念が掲示されている。職員はいつも意識しながら理念の実践に向け日常的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には法人として加入しているが、行事に参加するまでには至っていない。事業所の納涼祭には自治会の役員や民生委員等の方々に参加してもらい、交流を深めている。地主さんなど、近隣の住民の方にはお茶を飲んでもらったりする機会をもうけ、情報提供を受けたりしている。	○	老人会等の行事にも参加するよう努めてほしい。また、より親しいお付き合いが日ごろからできるように、利用者自身が職員とともに回覧板をまわすことを検討している。このことについても、法人と話しあい、実施に向けて取り組むことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は職員のミーティング、家族会、管理者会議等で報告し改善に向けて取り組んでいる。昨年度の評価結果で取り組みを期待したい項目としてあがっていた「事業所独自の理念が作られていること」「ホームの案内板」についても検討し、改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは市担当者、民生委員、家族会会長、老人会代表等で構成されており、ホーム運営の状況や外部評価の報告等を行っている。現在は地域の消防団の方にも参加してもらえるように依頼している。今年度は、委員の異動や役員交替等が多く、まだ開催されていない。	○	運営推進会議は、外部の人々と具体的な改善課題等について話しあったり、地域の支援を得るための有意義な機会となる。今年度の会議を早期に開催し、サービスの向上に活かした取り組みがされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課の担当者とは、事業所の勤務表作成や人員確保等の考え方を聞くなど、相談したり、指導を受ける機会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、常に面会時や電話で報告している。また手紙を出すこともある。金銭管理については、月ごと報告しており、異動についても1か月前には連絡し、また新しい職員は面会時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情は業務に活かしていきたいので、面会時等に気軽に言ってもらえるよう雰囲気づくりに努めている。また、家族会にも働きかけている。ホーム入り口付近には、手作りの意見箱が設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は極力抑える努力をしている。法人としての異動は3年に1回あるが、なるべく固定してもらえよう母体組織に依頼している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修など、研修会開催の情報を職員に提供し、勤務がゆるす限り参加できるような体制づくりに努めている。また、研修の内容については、毎月行っているミーティングにおいて、参加した職員に報告してもらい、内容の共有にも努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国や県のグループホーム協会に加入している。外部研修の機会や、また研修などで知り合った他の事業所の職員と電話などで情報交換を行い、サービスの質の向上に励んでいる。市内には他にグループホームがないので、相互訪問等の交流は行っていない。	○	同業者との交流は、日常業務を振り返る機会ともなり、職員育成に役立つことから、市内に限らず相互訪問等により同業者との交流を持つことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、本人・家族等にホームを見学してもらい、施設の雰囲気に馴染めるように努めている。入所に際しては、使いなれた家具等を居室に配置するなどして、居心地よい居室をつくることを家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の場で教えてもらったり、また、ことわざや戦争体験などの昔の話を聞かせてもらうこともある。他の利用者さんの状況を教えてくれる時もあり、支えてもらうことも多く、共に生活を送る関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事務業務も共有スペースで行うなど、一緒にいる時間を多く持つように心がけ、本人の言動や表情等を通しての状態観察を大切にしている。夜中に食べたい等の訴えがあれば、少量の食べ物を用意し、満足感を得て眠りにつけるようにするなどの配慮も行っている。本人の思いや意向を大事にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員等必要な関係者の参加による会議を開き個別の具体的な介護計画を作成している。会議の日は職員数を増やすなどの配慮を行い、個々の職員から、対応の仕方、夜間の情報、会話の内容など細かい情報を提供してもらい、担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の様子を確認し、申し送りの際などで評価し、またモニタリングは3か月に1回行い、現状に即した計画を作成している。家族にも説明、報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の馴染みの事業所として柔軟な外出支援を行ったり、また併設型ホームの機能も活かしている。併設施設での行事にも参加し、地元中学生との交流行事では、共に楽しめる時間をつくっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に説明し、現在はホーム内でゆったりと身構えずに対応できるように24時間対応の往診(2か所)で支援している。歯科については、かかりつけ医に、家族により通院対応してもらうなど、適切な医療を受けられるような支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については、本人、家族と都度確認している。看取りは難しい状況にあるため、重度化した場合は、家族に説明し納得してもらったうえで、併設の特養に申し込みをしてもらうこともある。ただし、できる限りホームで支援したいという思いも強く、重度化された方がいた時に勤務体制を変えたこともある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会者等には、必要に応じて面談室や居室の利用をお願いしている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をとらないように注意し、笑顔で共に過ごすことを心がけている。記録等の個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや希望にそって、日々その人らしい暮らしの支援がなされている。入浴やレクリエーション等も声かけはするが、無理強いはせず本人のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューにも希望を取り入れ、また畑の野菜と一緒に採って調理し、「押しぐるま」に自分のお盆をのせて片付ける姿も見られた。月に1~2回外食もしている。家族等と一緒にホテルで食事したこともあり、大変好評だった。また、お弁当をもってピクニックへ行くなど食事を楽しむことのできる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月曜日と金曜日で主に昼の対応となっている。利用者の希望にそって夕方の入浴支援や入浴日についても、利用者の状況に合わせていこうと検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗い物、洗濯物や野菜の収穫など、できる部分やその人らしさを大切に役割、楽しみの支援をしている。得意なことを活かせるように、あいさつの上手な方には納涼祭など行事の際に、あいさつをしてもらうなど、喜びをもって過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車で買い物にでかけたり、またドライブやピクニックに行くこともある。また、施設のまわりを散歩するなどの外出する機会をもうけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やリビングからは自由にテラスや外へ出入りできるようにしている。玄関は防犯等の理由により鍵をかけているが、外へ出たいという希望があれば、対応している。	○	利用者は、玄関以外は自由に出入りできる状況にあり、玄関から外出しそうな様子もあまり見られなかったものの、閉塞感があってはいけないので、玄関も日中は鍵をかけないですむ方法について検討されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導を受けて避難訓練を実施している。また地域の協力をお願いするために、消防団へもあいさつに行き、協力依頼している。日々については、自主検査チェック表を作成し、毎日チェックをし、避難経路等の確認も行っている。居室の家具の固定等の対策まではとられていない。	○	安全・安心な住まいであるために地震対策についても点検と対策をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌に各自の食事の摂取量を記入し、チェックしている。また、水分の摂取量についても同様にチェックしている。併設の特養の栄養士と連携もできている。糖尿病等の利用者には医師や家族と相談しながら、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、清潔感がある。廊下にはソファが置かれ、また畳スペースも設けてあり、冬にはコタツが準備される。テラスも広く、椅子を置くなどして、居心地の良い楽しめるスペースとなっている。ひな飾りや鯉のぼりなど季節感のある飾りをリビング中心に飾りつけるなどの工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が何を大切にしてきたか、必要なものはどのようなものであるかを家族と相談し、できるだけ使いなれた馴染みの物を配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		